

踵骨骨折

踵骨という骨は(図一1)の部分で二足起立、歩行の時にはこの狭い部分で全体重を支え、重心を一定に保つ重要な骨です。また、踵骨はたいへん重要な骨にもかかわらずいったん壊れるとなかなか元通りになりにくい性質を持っています。

踵骨骨折(図一2)は、主に30～50歳の大工・左官・トビ職など高所で作業する人に多く見られ高所からの墜落、飛び降り、階段からの転落、交通事故等によって起こる事が多いと言われています。

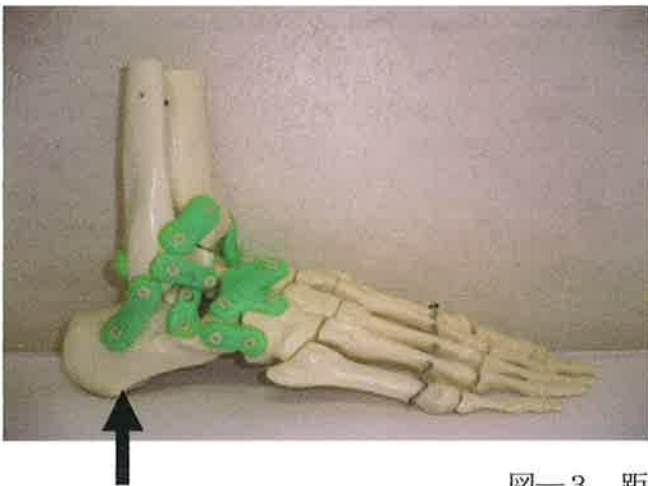
症状

骨折の症状は激しい痛みのため立つことや、歩くことが出来なかつたりくるぶしの下の方がひどく腫れたり、皮下出血のため赤紫色になつたりしますが、この様な症状は数ヶ月である程度はおさまります。しかし、踵骨の上には距骨という骨があり、この間で距踵関節(図一3)という関節を作っています。この関節は凸凹道等を歩く時に重要な役割を果たしているため、骨折がこの関節まで及ぶと歩く時に不快な痛みをいつまでも残す事があります。

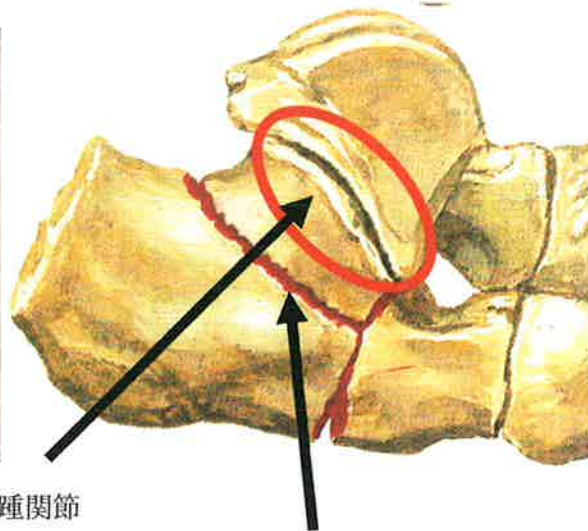
治療方法

この骨折は骨折の仕方、程度によって治療方法が変わっていきます。比較的軽い場合は徒手整復の後にギプス固定を行い、その後運動療法を行っていきます。しかし、程度のひどい場合等は手術療法を必要とすることもあります。それでも踵の痛みが続く場合は踵への負担を軽くするための足底板等の装具療法がありますのであせらず治療していきましょう。

この疾患について不明な点がありましたらスタッフにご相談ください。



図一1 踵骨



図一3 距踵関節

図一2 踵骨骨折